

施政方針



井上 健次 けんじ
毛呂山町長

「協働のまちづくり」

を推進します

大変多くの市民の皆様にご支援をいただきまして、去る5月15日に第8代の毛呂山町長に就任いたしました。

まずは、毛呂山町長として、東日本大震災で亡くなられた多くの方にたに哀悼の意を表すとともに、被災された多くの方がたに心からのお見

舞いを申し上げます。

さて、少子高齢化社会が現実の問題となり長引く不況の時代に、各自治体に課せられたテーマは「協働のまちづくり」の言葉に表されるような公的な役割を見直す行政であります。私は、この「協働のまちづくり」をさらに分析し、「自助・共助・公助を踏まえたまちづくり」とし、「あなたが主役の毛呂山づくり」をキャッチフレーズにしました。

あなたが主役の毛呂山づくり

- 1 医療・福祉をさらに充実させる
- 2 行財政改革による減税に取り組む
- 3 雇用創出に全力で取り組む
- 4 子どもたちの環境を整える
- 5 町防災をしっかりと確立させる
- 6 生活道路を最優先で整備する

それは、福祉行政をもう一度見直し、「自分の事は自分の責任で自分自身が行う」「自分だけでは解決や行うことが困難なことについて、周囲や地域が協力して行う」「個人や周囲、地域あるいは民間の力では解決できないことについて、公共が行う」という行政のあり方が、さらなる税の公平・公正な使われ方を意味するからです。

すなわち、今まで行政に頼ってきた個人の課題も、自分自身で解決できれば町行政の負担を軽減できるものであり、その行為が「自助として協働のまちづくりに参画した」と言えるものだからです。

同様に、共助としては「地域まもりネットワーク」にみられるように地域で支え合う昔ながらの村落共同体のような社会を目指すことが大切です。独居で生活する高齢者が多い本町では、共助の施策を進めることによって、安心・安全なまちづくりの構築につながるものと確信いたします。

自助と共助への働きかけから、過度に頼られていた公助がよりコンパクトとなり、行財政改革も含めて予算の使われ方も見直すことができます。道路行政をはじめとして企業誘致や観光事業など山積する毛呂山町ならではの課題をできるだけ早く解決していくために、自助・共助・公助を踏まえたうえでの意識改革が必要であると私は考えています。

次に、緑豊かに自然あふれる毛呂山町が今まで進めてきた住宅環境の整備とは裏腹に、緩やかに人口は減少しています。こうした現状を踏まえ、次世代のためのまちづくりの課題として『●医療・福祉をさらに充実させる●行財政改革による減税に取り組む●雇用創出に全力で取り組む●子どもたちの環境を整える●町

防災をしっかりと確立させる●生活道路を最優先で整備する』といったように政策公約では、解りやすく基本的な6つの柱を掲げました。

医療・福祉をさらに充実させる

埼玉医科大学病院を有する本町は、「医療と福祉の町もろやま」であります。できるだけその利点を生かした町政運営が望まれるのは当然であり、「医療シャトル便」をタクシー事業所の協力で進めることも「子ども医療費資格証導入」も埼玉医科大学病院を有する毛呂山町ならではの公約であると考えます。

行財政改革による減税に取り組み

あらゆる無駄を見つけ出し税財源を限りなく有効に使うのは行政に課せられた使命です。聖域を設けず行財政改革の断行をしていきます。

例えば、「ゴミ減量化施策などにおいては、今まで及ばなかった負担金の考え方に着手することであり、数値的目標を掲げたうえで、のシミュレーションから負担金の減額を実現することで、少しでも多く町民の皆さんへ税を還元していきたいと考えます。

雇用創出に全力で取り組む

町が計画する南部地区および東部地区の企業誘致を進め、できるだけ

早く、結果を皆さんにお見せてできるように全力で取り組みます。特に、旧日本ホーバスの用地については、町道第7号路線の拡幅工事や川角小学校東側の右折帯を含めた交差点改良も併せて実施し、企業誘致しやすい環境を整備していきます。

子どもたちの環境を整える

学校を守るフェンスを計画的に整備し犯罪抑止力を高めていきます。また本年4月に栃木県で登校途中の児童の列にクレーン車が突っ込み6人の児童が亡くなるという痛ましい事故が起こりました。このような事故が二度と起こらないように、歩道と車道を分けるガードレールの整備を危険箇所から順次進め、重点的に整備していきます。

町防災をしっかりと確立させる

未曾有の被害をもたらした東日本大震災を教訓とし、地球規模では全てが「想定内」という考えのもとに備えを万全なものいたします。

例えば、消防署・消防団の組織力を高めるためのソフト・ハード面の施策を強化します。また、自主防災組織の全行政区での設立を目指し、さらに避難場所の見直しや企業・個人なども災害協定を締結して毛呂山町独自の強固な防災ネットワークを確立します。

生活道路を最優先で整備する

下水道および浄化槽設置の進捗を図りながら水道事業との連携のもと、側溝修繕工事と併せて整備を進めます。特に、生活に密着した道路を整備するために、町内の住宅開発年度や整備率を基本にして計画的に進めていきます。そのためには地区への情報開示も必要であると考えています。

平成23年度の主要な取組

まず、当選した際の「東日本大震災の被災地に毛呂山町としての支援を行います」という公約を果たすために、すでに5月24日から役員職員6人による現地調査を被災地ボランティア活動と併せて命じました。

この現地調査は、岩手・宮城・福島・茨城4県の被災地の現状と、ボランティア団体などの受け入れ体制が整っているかの調査であり、持ち帰った情報から毛呂山町としての支援体制を整えるものです。そして町民の皆さんと共に「オールもろやま」での復興プロジェクトを時限的に進めていきます。

武州長瀬駅北側周辺整備事業につきましては、国の主導のもと、平成26年度完成を目指して粛々と進めて

まいります。また、同じく3月議会設計予算が承認された上町保育園の園舎建て替えについては、子育て環境の充実を柱に人口動態調査を踏まえた考え方と民間の幼稚園および保育園などの状況を勘案し、バランスがとれた整備を進めてまいりたいと考えます。

私は、常に町民の立場に立ち、「毛呂山町は、よくなったなあ」と言っていただけの希望と活力に満ちた毛呂山町のために努力をしていく決意です。

